

フッ素アレルギー

フッ素といえば、おなじみのフッ素洗口液やフッ素入り歯磨き剤、虫歯予防のフッ素塗布などを思い浮かべますね。それまでは、一年間に数人、フッ素洗口液アレルギーの為フッ素洗口致しません、という診断書を書いてきました。それも、添加されている香料に問題がある方も多く、逆に言うと、ほとんどの方はフッ素には問題が無いと思われました。私どものスクリーニング表にも入れていなかったのです。ところがその考えを一変させるお子さんがおいでになりました。

K さんと R ちゃんのお母さんは、「小麦を食べさせて全身に発疹が出て、とても痒がっていますので、診てください。」と、依頼してこられました。「では、その時食べさせたものをすべて持ってきてください。」程なく、ご機嫌の悪い二人のお子さんを連れておいでになりました。

早速拝見しますと、水いぼのようなぶつぶつが全身に見られ赤く腫れて、喘鳴や咳も出ています。強いアレルギー、アナフィラキシーともいえる状態でした。気管支拡張剤やステロイド内服などの治療が必要でした。原因を特定するため、持って来られたものをすべて調べてみたのですが、小麦粉もじゃが芋、さつまいも米もアレルギー反応は無いし、共鳴もしませんでした。

改めて調理の状況をお聞きすると、新しいフライパンではじめて調理したと言われます。フライパンの素材で調べてみるとニッケルやクロム、鉄、アルミなどが原因ではなく、フッ素のアレルギーと判明したのです。ぶつぶつのすべては、フッ素と共鳴したのです。今後の治療と予防には、フッ素を使用している物をすべて除去する必要がありますが、さて、何故初めて使ったフッ素の調理器具によりこんなに激しい症状が出たのでしょうか？おそらく妊娠中や授乳中にお母さんがフッ素入り歯磨き剤やフッ素加工の調理器具を使用する中で、フッ素に強く感作されていたのだと思うのです。

K くんは後に前頭葉の異常に気付き、調べてみるとあの時のフッ素が蓄積していることが判明しました。キレート剤を服用して約 1 か月でフッ素を排出することができ、同時に症状が改善しました。同じものを食べ、同じ環境にいる R ちゃんは、皮膚症状だけで、内に症状が向かうことはありませんでした。

歯科医師の中にはフッ素が虫歯予防に有効という科学的根拠は無く、知能低下など有害であるためフッ素塗布やフッ素洗口を止めるべきだ、と主張する人々がいます。確かにフッ素の毒性は強く、フッ素の研究中に失明したり、死亡したり、病気になったりした人もいたそうです。アルミ工場の産業廃棄物としてのフッ素を資源とするべく暗躍、情報操作したとも、言われていますが、私には詳しくはわかりません。

2006 年米国の NRC 報告書では IQ の低下、認知能力の有意な減少、神経伝達物質の阻害などフッ素が脳及び全身の機能を妨害することは明白と記されています。

焦げ付きにくい、よく滑るため調理しやすいなど手軽さや便利さにのみに目を奪われたりしないで、また、フッ素入り歯磨き剤、フッ素洗口など、はっきりした証拠のないものは、予防原則にのっとり使用しない勇気をもって対応しなければ、個人も環境も、取り返しのつかないフッ素汚染状況に陥っているかも知れません。